

今年も 開催

「思い出に残る授業」を 生み出す食と農の体験 信州・つがいけ食農学習センター「食農教育講座」



「やってよかったなあ」と実感
「講座で教えていただいたことが大変役に立ちました。講座を受けた二〇〇四年はちょうど小学校五年生の担任で、バケツ稲と田んぼに取り組み、無事に収穫。藁からはワラジや藁馬、壁掛けをつくり、糠は糠入り白玉やクッキーやワック・石けんにも利用、粃殻は燻炭にして田んぼに返しました。何一つ無駄にしない昔の人の知恵を学び、よい経験になりました。」

お米を食べる際も、子どもたちは「カレーやピラフにしては味がわからない」と、おにぎりにし、「こんなにおいしいご飯は食べたことがない」と感動した姿を今も覚えています。その

この「食農教育講座」は、長野県北安曇郡小谷村の「信州・つがいけ食農学習センター」で毎年、開かれていた「食農教育講座」に参加された東京の小学校の先生からの手紙です。

先生によると、この取り組みを行なった子どもたちが今年卒業する際、「六年間で学んだこと」で、この時の体験をあげてくれる子どもが「つぎつぎ出、やってよかったなあ」と実感。今年四月新しく赴任した小学校は畑がないので麻袋栽培に取り組みたい、今年の食農教育講座にまた参加したいと張り切っておられます。

「学習や生活の基盤をつくる「体験」」
「審議会経過報告」（中教審教育課程部会）でも、子どもたちに必要なものは「学習や生活の基盤」であるとして、言葉の重視とともに体験重視を押し出し、体験については実生活と関係づけた教育内容や教育方法を提起しつつ、食育についても一項目設けて説明しています。ど

第1回「食と農の体験学習プランをどう立てるか」
8月4日（金）～6日（日）
子どもに感動を与える栽培学習コソのコソ／暮らしを伝える 農家の料理教室など
第2回「五感で学ぶ！食農まるごと体験劇場」
8月11日（金）～13日（日）
世界の食文化にふれる！ハンギに挑戦／先人の知恵に学ぶクラフト体験など、

受講料 各回、二万七〇〇〇円
申込先 (株)農文協文化部
TEL・03-3585-1149 FAX・03-3585-6466
E-mail hatiya-m@mail.ruralnet.or.jp
（上記写真は二〇〇五年度食農教育講座の様様）



食と農の本のことなら 農業書センター

通販書店 田舎の本屋さん



身近に書店や図書館のない方のために設立。会員は送料無料、各種目録進呈（入会金1050円、年会費2100円）メール通信「田舎の本屋さん通信」で、各種出版情報提供

ホームページ <http://shop.ruralnet.or.jp/>



●独自に収集・仕入した「一般に流通していない農業書」も販売。最新リスト進呈

日本で唯一の農業専門書店。農業技術、農業経済、家庭園芸、地域振興、環境問題から、食文化、食農教育関連図書も充実。通販も対応。

〒100-0004 東京都大手町1-8-3 JABビル地下1階
TEL 03-3244-5176 47
FAX 03-3270-2800